

令和4年度 第2回 南丹市健幸まちづくり推進協議会議事録

日時：令和5年2月20日（月）

午後1時30分～3時30分

場所：南丹市役所3号棟2階 第4会議室

【出席者】船井医師会 木村茂委員 / 南丹市議会厚生常任委員会 下間康広委員 / 京都府口丹波歯科医師会 大町康人委員 / 南丹市老人クラブ連合会 中澤義久委員 / 南丹市女性会 川勝久美子委員 / 南丹市スポーツ推進委員 山口裕之委員 / 南丹市食生活改善推進員協議会 小崎フサエ委員 / Nantan 健歩会 山下秋則委員 / 健康経営をしている事業者 二九精密機械工業（株）八木工場 小泉美保委員 / 南丹市商工会 西出英人委員 / 包括協定大学代表 明治国際医療大学 伊藤和憲委員 / インターバル速歩を推進する者 明治国際医療大学 齋藤昌久委員 / 京都府南丹保健所 細野幸代委員 / 南丹市社会福祉協議会 上藺和子委員 / 市民公募委員 池田総子委員

【欠席者】道の駅連絡協議会 横山洋太郎委員、南丹市PTA連絡協議会 野瀬尚子委員、南丹市立小学校長会 中川美登利委員

【司 会】保健医療課長

1. 開会

【保健医療課長】

皆さんこんにちは。それでは、定刻になりましたので令和4年度、第2回南丹市健幸まちづくり推進協議会を開催いたします。

本日は委員の皆様におかれましては何かとご多用にも関わりませず、本協議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。本日、司会を務めます保健医療課長の犬谷です。よろしくお祈いします。条例第6条の規定により本協議会は出席委員が過半数に達していませんので、本協議会は成立していませんことを報告します。出席状況につきましては、お手元の委員名簿を見て確認をお願いします。現在のところ、横山委員さんと齊藤委員さんが見えませんが遅れて来られるのではないかと思います。次に資料の確認をお願いします。お手元の次第の方に本日の資料一覧を記載しておりますので、こちらの方の次第の方のこの部分に記載をしておりますので、もしない資料があれば職員の方を呼んでいただければと思います。事前に送らしていただいていた資料が、もし今日お持ちでない方があったら、手を挙げていただいたらお持ちしますのでよろしくお祈いします。本日の協議会は、事務局からの報告、委員の方からの報告、健康都市宣言の草案の審議をいただきたいと思っております。終了時間は午後3時30分を予定しております。それでは開会にあたりまして、木村会長よりご挨拶いただきたいと思っております。木村会長よろしくお祈いします。

2. 会長挨拶

【会長】

皆さん、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます、本日、健幸まちづくり推進協議会の中で南丹市の健康都市宣言の草案についてご審議いただくということで、色々な考えをまた、言っていて、僕が見たところは、いい感じだなと思うんですけども、それについてまたご意見があれば、活発な答弁をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【保健医療課長】

ありがとうございました。それでは次第に従いまして、早速、議事に移らせていただきますが、本協議会条例第5条の規定により、会議の議長は会長が行うこととなっております。以降の議事については、会長に進行をお願いいたします。

【会長】

それでは始めていきます。議事の1ですね、健幸まちづくりについて事務局からの報告として、健幸ポイント事業、健幸アンバサダー、タバコ対策、食育の取り組みと言うことで報告をお願いします。

3. 議事

(1) 健幸まちづくりについて

ア 事務局からの報告

【事務局】(資料1、資料2 ①健幸ポイント事業、健幸アンバサダー、②タバコ対策、③食育の取り組み(健幸・食育レシピコンテスト 説明))

【会長】

ありがとうございます。今のご報告で少しでもコメントがある人がおられたら、後から意見交換しますので。はい、じゃあ報告として伊藤先生、先に。

イ 委員各位からの報告

【副会長】(資料4 ②YOMOGI 説明)

【会長】

ありがとうございます。齊藤先生はまだ来られていないですか。

【保健医療課長】

2時半頃になると聞いております。すみません。

ウ 意見交換

【会長】

それでは意見交換をしたいと思います。何か今までの発表で何かご意見のある方はいか

がでしょうか。伊藤先生、こういうアプリを南丹市のなんたん健幸都市につなげるというか、その中に組み込むやり方は、具体的に何か健幸ポイントまでもっていく。

【副会長】

健幸ポイントは、多分皆さんがポイントを付けて、商工会の商品券で、この中でポイントつければ同じ様にやる事が出来るのですが、地域のもので繋げようと思えば、今の健幸ポイントのアプリとこのデータを連携させられたらいいんですが、そうすると、ある程度やれるのかなとは思いますが、一応、中でも歩行数とかを入れるところがありまして、その歩行がどうなってるかってことを入れることは可能なんです。ただ僕のやつは身長と体重に応じて目標値が変わってくるので、ただ単に歩けばいいというわけじゃないようになって作られてますし、歩くだけで健康になるわけじゃないので、食事とかその辺をバランスよく見ているってのがあるので、連携することは、もちろん、これ無料なので、別にお金はかかりませんから、一緒に同時にに入れてもらって、どちらかに絞ってくってのもよいですし、ちょっと、向こうの相手の方がこのデータを連携してくれないと連携できないので、これはまだお金がかかるかもしれませんから、二つ併存しながら歩きながらその健幸ポイントを使えるところをこの中でも増やしていくとかっていうことも出来るかなというふうに思ってます。

【会長】

僕たちの考えとしては、何か南丹市に健幸都市を作るという中に「YOMOGI」が入り、何とかが入りっていう形で一本化できてしまうということがやっぱり大事なかななど。

【副会長】

そうですね。

【会長】

今の先生であれば、ある意味では一般的な人もそこに入ってらっしゃることになるんで、なんかちょっと外れてしまってるんかなっていう。

【副会長】

もともとは一般の人用に作ってるんですから。

【会長】

そうですね。

【副会長】

一般の人ってなかなか広まらないので、企業を通して広げていくということになります。あとは、ポイントはやっぱりお金がないとできないので、こちらで勝手にポイントを出すことができないってのがありまして、市町村がくれれば、ポイントを付けてもいいのかなと思います。ちなみにこれは、精度が高いわけではないので、もっと改良が必要です。まず初めは他のアプリと併用しながら。あとは、こういう万歩計で多分データ飛ばしてるんですね、多分ね。

【保健医療課長】

活動量計からです。

【副会長】

活動量計からデータを飛ばすっていうのが、そこにお金がすごいかかるんですよ。なんで多分、向こう様は多分タニタさんがやっているのでタニタさんがそういう仕組みを持ってるんで、そのデータを無料で多分飛ばしている。我々はその活動量計を持っていませんので、そのデータをもらおうと思うと、向こうはビジネスなので、私がお金、南丹市がお金を払ってそのデータを吸い上げないといけないってことがありますけども。ただ、今はこういうウェアブルに関しましては地元の企業様とか、そういうとこと一緒に開発できないかとか、今だんだん皆さんアップルウォッチとか時計を着けていると思うんですが、そこでデータが貯まっているので、そのデータを個人では見ることができるんで、その個人とつなげていくってことで、データを回収するってことも、先々はできるんじゃないかなと思います。今すぐそれができないので。

【保健医療課長】

すいません。なかなかアプリの開発自体が難しいところあると思うんですけど、健幸ポイントは参加して貯めるといふところがありまして、健康教室とかの参加っていうのを今していただいているところではありますし、参加して貯めるところに伊藤先生のこういう「YOMOGI」のアプリとかも、参加のポイントっていう形で加わっていただくっていうことも可能ですし、その辺からちょっとまずは連携できたらいいのかなと思ってます。健幸ポイントは健康に関するあらゆるその活動をポイントとして取り組む仕組みもありますので、そこから、もしよければさしていただけるかなと。

【会長】

それは任意になるん。

【保健医療課長】

一応うちで認定する必要があるんで、この活動はこれにするっていうのが必要なので、来年度の健幸ポイント事業の中で入れさしていただく、伊藤先生がよければですけど。させていただきたいなと思ってます。

【副会長】

こちらとしては、地域で健幸ポイントが使える場所っていうのが、私たちが全てやってるわけではないんで、それがわかるとその情報を流すことができるので。いわゆるどこでその情報をやってるかわからないっていう方が多いと思うんですが、それが体調に応じて、あなただったらこれがこういうイベントおすすめですよアプリは教えてくれるんですが、そもそもイベントではないので今教えられないんですが、南丹市かやってる事業がすべてあるのであれば、それをつなげていったらできると思うのでそこはやろうと思ったらできます。

【会長】

例えば、今参加してる活動量計を使っている人全てが「YOMOGI」に入るわけではな

くて、「YOMOGI」をやってみたいと思う人がやって、ポイントが付くということですね。

【保健医療課長】

はい、そういうことです。

【会長】

なかなか、入力するのも30分ぐらいかかる。

【副会長】

そうですね、慣れたら10分くらいで出来ますけども。もともとは、高齢者とか企業の体操とかの時にに入れてもらうことを前提にしているので。このアプリの一番重要なところは、自分の体を客観的に見ることなので、歩いてるイコール、いっぱい歩けば健康になると思う人がいるんですが、そんなことは決してなくて、適切な量じゃないとやっぱり体は壊れてしまいますからその適切な量だったりとか、その負荷のかけ方をどうするのかみたいところを、このアプリが教えてくれるっていう形になってます。

【会長】

それは、やっぱりどっかで理解してもらわなあかんな、市民の人に。

【副会長】

例えば、この参加して貯めるというところで、そういうアプリで体調を入れるところに参加することでポイントがもらえるよってことにすれば、そこでみんなで計れば、多分自分じゃなくて周りの方で、自分で入れることもできるんですが、みんなで集まることは多分一つの方法かもしれませんし、例えば何かスポーツイベントがある前にみんなで入れるとかってしていくと、多分それはデータが溜まっていくんじゃないかなと思います。

【保健医療課長】

健幸ポイントの来年度の計画としましては、在住・在勤の方にも広げていきたいというふうに考えておまして、今日先生の資料であったような従業員の方の健康管理にこの「YOMOGI」を活用いただくような事業所があって、さらにそこに健幸ポイント事業にも参加していただける仕組みが構築できれば、すごい連携できると思いますし、その辺からまた進められたらいいのかなとは思ってます。今回我々がやってる健幸ポイント事業は4市町連携でタニタヘルスリンクとはやってるんですけど、ちょっとデータをそこを伊藤先生の方に出すとかってなかなか、参加者の個別のデータは出せないで、全体の南丹市の健康状態がどうなってきたかとかっていうことはお知らせできるので、その辺りまた伊藤先生と十分連携させてもらいながら今後進めていければなと思いますので、なかなかちょっと今日すぐっていう結論は出ないですけど、方向性としては、連携をしていくという方向性で今後も進めていけたらなと思ってます。

【副会長】

健康のモチベーションが高い人はアプリを入れてくれるんですが、そうじゃない人が一番やって欲しい人が入れてくれないっていう問題があって、そこに価値を変えて例えば自

分のやる気とか、その仕事に対するモチベーションが上がるとか、何か違うところで病気じゃないんだけど、モチベーションを上げるために体の事とか食事とかが大切なんだと思ってもらおうと、もう少し価値が変わればやる人が増えるってことがあって、今、力を入れているのはそっち側というか、ちなみに今日出さなかったんですが、うちの大学は田舎にあるので全入時代って言って、みんな偏差値がないぐらい皆さんが入れるような大学だったんですが、今この体調と成績も、完全に相関してまして、体調が悪いと成績が大体悪いし、学校に来ないんです。勉強できないから学校に勉強しにおいでという絶対に来ないんで。怒られるのがわかってますから。ただ、体調が悪いから体調管理においでって言うと学生は来てくれて、体調が管理できると同じ勉強時間でもいわゆる集中力が高まりますから成績が上がっていき留年者が減るっていうような、このサイクルを一応中で確認してるので、本当は学校とかそういうところで用いてもらおうと、もうちょっとその成績があがるっていうと失礼な言い方かもしれませんが、健康の価値を少しずつ変えられたらなというのがもともと目的の中にあります。

【会長】

そういうデータは、ちょっとね、例えば一般の、例えば学校の中の校長先生とかそういうふうに入れてあげたらですね。

【副会長】

あんまり公に出すとうちの関係者なんで。そういう形で、小学生とか中学生は、肥満でない限り、健康が当たり前なので、あまりそういう事を意識してくれませんから、何か違った視点でそれが見つけたらなと思います。

【会長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

はい。すいません。この今言われてるアプリ「YOMOG I」は、現状では特に検索したらダウンロードできる状態にはなってないですね。

【副会長】

これは健康アプリとして使ってる、いわゆる皆さんがよく使ってる Apple Store にあるわけなんですけど、ウェブ上に Apple Store に入れると、結局使うためにこちらがお金を払わないといけないので、お金は取ってないからお金が払えないっていうのがあって、ウェブ上にありますので、「YOMOG I」っていうのをに入れてもらったら、一応ここに QR コードをちょっと今小さいのが載ってるんですが、それを読み込んでもらおうと一応そこには行けるようになってるんですが、またそれのような冊子もありますので、もし必要であれば、そういうのを見てもらったりとか、例えば老人会の方々が集まる時に、こういうのをに入れてもらって自分の体を知ってもらってことで、特に年齢が差が起こると同じにはなくなって、1 個の活動で、私はできるけどあなたはできないからということが起こった時に、点数化してわかると自分の体調が何となくわかって、一緒にやっちゃいけないんだとか、少し

量を減らそうとかいうことに使えるので、活用の方法はいっぱいあるのかなと思っています。あとはさっき言った南丹市の食事の小学生が作ってるやつも、この中に入れてくことができるので、そういうのを発信していくってことも、見てくださっねって言っても、なかなか見てくれないんですが、あなたのタイプではこういう食事がいいですよということも一応配信できるような仕組みにはなっています。今は一応2市1町ですかね、南丹、亀岡と京丹波のイベントを京都府からもらって配信してるんですが、病気のためのイベントばかりなので、あんまり、この健康な人たちが見るものがないんです。なんで、糖尿病予防教室とかってのはあっても、それは一般の人が行くわけじゃないので、それはもうちょっと一般の人が楽しめるようなデータが増えたりするといいのかなと思っています。

【会長】

他にいかがでしょうか。今の「YOMOGI」以外で、食育の取り組みとか、健幸ポイントの中で何かご意見のある方おられないでしょうか。

【副会長】

健幸ポイントってのは、今の事業で無料でやれてるんですか。

【保健医療課長】

参加費を1,000円いただいています。

【副会長】

毎月、1,000円ですか。

【保健医療課長】

毎年です。

【副会長】

個人が負担する。

【保健医療課長】

はい。1,000円は個人としていただいている、その趣旨は、1,000円を払ったからにはちゃんとやろうっていう、そういうインセンティブを起こすための。ちゃんとやっていただいたら、4500ポイントで4,500円分の商品券が出るので。

【副会長】

商品券は、どういう仕組みでもらえるのか。

【保健医療課長】

それは、市の財源、国の補助金も活用してますのでその辺りと、あと今後は企業版ふるさと納税も今年少しいただく予定なんですけれど、そういうのも、もっと入れていくことで、健康投資をする企業からもいただきたいなと思ってます。

【会長】

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

【委員】

2021年から始まったんですね、この健幸ポイント事業は。

【保健医療課長】

はい。

【委員】

実際にどれぐらいのこの交換された人の人数とその商品券の状況を公開されているのですか。

【事務局】

今、公開はしていません。

【委員】

それって目標値があって、目標値に向かってこれぐらいみたいなのは。

【事務局】

まだちょっと3年度と今年度の実績しか出てないんですけども、大体、昨年も限度額までいかれた方が2割弱やったんですけども、今年についても4,500ポイントを集められてる方が先ほどの報告でもあったのですが、2割に満たないぐらいの達成度で、今おります。

【会長】

それは公開はできないの。

【事務局】

いえ、それはまたできますけれども、今のところは。これからポイント交換会を2月28日にしますので。

【会長】

出してた方がいいかもしれないな。

【事務局】

はい、また検討します。

【会長】

他にいかがでしょうか。はいどうぞ。

【委員】

すいません、健幸ポイントのことなんですけど、以前からアナログ版でされてた時は、健康に関する取り組みをするので健幸ポイントを付けてもらうようお願いしますと言う事で、RUN伴(ラントモ)っていうイベントに参加したら50ポイント付けてもらうっていうことで、社協の方と連携させてもらっていた経過があったかなと思うのですが、その形でうちも「健康すごろく」というのをやっています、それが何か連携できひんかなって常々思ってるんですけど、そういうのは難しいですかね。

【事務局】

いえ、令和5年度の計画はこれから立てますので、ぜひとも連携させていただきたいので、また、是非ご協力よろしくお願いします。

【会長】

そういうのがあれば、またね他の組織の方もこんなんやったら何ポイントとして申請して採用されるかどうかわからへんけど、出さばったらいいんじゃないですかね。

【事務局】

ありがとうございます。

【委員】

健幸ポイントのことなんですが、検診を受けて貯まるというふうにありますけど、歯科の方の健診もポイントは加算されてるんですか。

【保健医療課長】

はい。対象になってまして。

【会長】

あとは広報ね、もらえますよって言ってもらったほうがいい。

【委員】

それは、自己申告になってるんですかね。

【保健医療課長】

検診結果はいただかなくても受診された証明とかをいただいたりしてますね。

【委員】

僕らが健診をしたということで健診結果をそちら側に送り返していると思うんですが。

【事務局】

はい、そうですね。市の事業として歯周病予防健診ですとか、後期高齢者の歯科検診を受けていただいた方は自動的に付与するようになってますけれども、それ以外にも、歯科健診を定期的に受けていただいている方については、自己申告シートというのを出していただいてそれについては少し医療機関の証明みたいなのを添付していただいて申告していただいたら、同じようにポイントを付けるような仕組みにはなっています。

【委員】

はい、わかりました。

【会長】

それなら領収書コピーでいいね。

【事務局】

領収証であったりとか、なんか検診やったらちょっと結果をもらっていただいたりしているのをそれを見せていただいたりします。

【委員】

健診はもう保険じゃなしに、自費で行っている部分もあるので、領収書よりは、もう検診結果みたいなのを渡す。

【事務局】

はい。

【会長】

わかるような書類やな。

【事務局】

はい、そうですね。こちらがそうやなと思ったら。これといって決まった書類はないんです。

【会長】

他には。はい、どうぞ。

【委員】

ウォーキングをしたりしているNantan健歩会の山下といいます。ウォーキングでポイントが貯まるんだったら、これ大変良い事業に取り組んでおられると評価しています。私達の会員の方もたくさん、登録されています。先ほど運動習慣のない方の為にということでおっしゃって、大体年齢の高い方が会員で多いんですけど、40代ぐらいの若い方がもっと歩いてポイントを貯めるっていうのが必要でポイントを貯めたいというのが一つの動機になって歩こうかというのがいいと思うんだけど、ポイントを貯めてその活用で今ちょっと商品券でもらえることがあるけど、その辺の若い人たちがじゃあもっと活用していこうかな、歩いてポイントを貯めようかなっていう、何かもうちょっとこう、活用の若い人向けみたいなものがね、ちょっと今後あったら良いと思うのと、今、活動量計を持っておられる方が年代別で大体わかりますか。

【事務局】

年代別については、やはり70代の方ぐらいの層が一番多いです。

【委員】

70代以上の方が多い。

【事務局】

そうですね。60代70代の方の層が一番ご参加いただいています。

【委員】

8割から9割。

【事務局】

そうですね。そこまではちょっといかないですけども。

【会長】

モチベーションという意味ではその「YOMOGI」をね、使われてもいいのかもしれないし。前に大谷さんにもちょっと言うたんやけど、アイコムという特定健診のデータを入れたら、あなたは今後20年間の間に、認知症になる確率はこんだけですよというデータが出てくるんですよ。或いは、高脂血症がどうか、糖尿がどうかとかいう何年後のなる確率みたいなのを、それをすることで次の年によくなっていましたということがあれば、モチベーションになりますよね。だから、僕はやっぱりモチベーションを引き出すような仕組みが必要かなというふうに思うんですけどどうでしょうかね。

【委員】

よそは商品券ではなくて、色々なポイントの付与の仕方をやってるところもあるんだと思うんです。例えば今、全国で使えるポイント業者と連携してポイントを付与するとかいうようなことも一つの方法かなと思って。うちは商品券で経済対策も含めてやっておられる形と。それはそれでいいんですけども、先ほど、幅広く若い人を外から来られる人もターゲットにしていったりとおっしゃった中では、ある程度もうちょっとその辺も視野に入れたほうがいいんじゃないかなと思うんですよ。

【保健医療課長】

はい、ちょっと今外の方の話もまさにあったんですけど、実は市内の企業の方とかに話を持って行った時とかにもやはり、なかなか南丹市の商品券では、使う場所がなかなか限られていたりとか通勤通学をされる中で使いづらいということも聞いておまして、使いやすい仕組みとかもっと手軽に交換できる仕組みとかそのあたりはもっと考えていかないといけないなと思ってましてちょっとこれからの制度設計の中で、取り組みができたならなと思っています。参加人数もこれから増やしていかないといけないところなので、概ね健康関心層という方には、ほとんど届いている状況なので、無関心層と言われるその若い世代の方かですね、10年後20年後に生活習慣病にならないために今、健康に取り組むべき層の方々、そこに情報が届くような活動には、ちょっと、来年度、検討はしているところなので、ちょっと今日今これをしますとなかなか言いづらいところではありますけど、取り組んでいきたいと思っています。

【会長】

伝わるっていうとやっぱり口コミが、先ほど言っておられましたけど、口コミが大きいとしたらね、そのもらったクーポンをどこで使うか。南丹市で使わないといけないってことになると、なかなか難しいところがあるんやけど、例えばそれをコンビニとかスーパーとかで使えるクーポンはありましたっけ。

【保健医療課長】

スーパーでは使えるんです、商品券は。

【会長】

ああいう風な形にしたら、南丹市に勤めている人もちょっとコンビニで交換しようかみたいな。

【保健医療課長】

コンビニは以前は参加されていたそうなんですけど、今は南丹市商工会の方には入ってらっしゃらないということで。

【委員】

ちょっと発行する側として頭の痛い意見もあったんですけど、大型店では、実はこの管内の方でも使えまして、小規模の店舗も含めると、大体、加入事業所さんが750程ございます。もちろん、この中には建設業とかね、あるんですけど、そういったところは関係ないですけど、一応使えるようになっていきます。小規模なところで商品券を使うというのが、な

かなか難しく、大型店で使われておりまして、何かちょっとその辺をね、出来たら商工会としては、小規模の方も入って頂きたいと。

【会長】

いや、それはな、最初、みんなにこうわかってもらって、規模が広がった時点でこうなっていくのと違うの。広がらへんのにな、小規模までいくと、なかなか広がらへんですよね。

【副会長】

私、いろんな資料でわかるんですが、ポイントが使えるとなると、結局、地域のお店でないところで使われてしまって、市によってはそのポイントの還元率を、500円使えるんだったら、地域だったら1,000円使えるみたいな感じでしてるところがあるんですが。最後問題なのは、結局、地元でそういうものがもうなくなってしまっていて、地元で健康を維持することができないような状況に、この南丹のライン上は多分そんなことはないと思うんですが、ちょっと奥に行くとそういう健康を維持するためのお店がないと。そこに住めなくなってしまって、結局その結果そこからどっか違うところに移っていくってことになってしまうことが起こるので、出来れば、健康と地域がないと健康を維持できないので、ここを連動して考えないとあまり利便性を高めれば、地域が衰退してしまい、最終的には健康にはなったんだけど、この地域では住めなくなったということになると意味がないので、その部分はやっぱりちょっと少し商工会の人たちのところに少し回れるような仕組みというか、そういうポイントの還元の仕方とかを考える方が、先々の南丹市を考えるべきかな。その方がいいんじゃないかなというふうに思います。

【会長】

還元率を、あそこの工務店で使ったら倍で使えるねんとか。

【副会長】

地域を維持するためには、コミュニティがないといけないので、地域の人達が便利な地域にならないと、人はここでは健康管理つくれませんから。私もよく思うんで私は痛みが専門なんで全国から患者さんが来るのですが、最終的にもうここに来れなくなったから地域に紹介しようと思っても治療院がないので、結局ここで維持してることは地域では出来なくなって、結局どんどん体調が悪くなって、寝たきりになっちゃうていうのが起こるとした時に、やっぱり地域でもそういうインフラとしては、最低限のものは用意しておかないとした時に、個人の努力でそれをするのは結構治療費であったり、お店が努力するのはちょっと限界があるんで。そういう意味では、この重点的な地域として、こういうところを対象にするみたいなことがあってもいいんじゃないかと思います。

【保健医療課長】

健幸ポイントを本当に万歩計を下げているのが健幸ポイントやっている印なので、ちょっと僕はアプリ会員っていうか、スマホでやってるので、それを下げているんですけど。職員でも下げている人同士やっぱりこう会話がやっぱりそこからこう健康をキーとした会話とかどれだけ歩いてるとかどこで歩いてるっていうのとか、そういう話が日常的に

聞かれるようになってきましたので。これお店の人とかでも同じことで、例えば八百屋さんに行ったり、魚屋さんに行った時にもそういうのをしている人同士であれば、また健幸ポイントに絡んだ健康の話とかも出てくると思うので、そういうところから、地域のコミュニケーションづくりとか健康の裾野が広がっていくっていうふうになればいいなと思ってますので。商品券の部分は少し工夫がいる部分もあるとは思いますが、商工課さんの方でも、これなかなか商品券の事業って難しい面もあって、大型店で使われるとなかなか大変な部分もあると聞いているので、そこが地域にうまく、経済が回るような仕組みも含めてちょっと別の事業でもちょっと商品券を南丹市は沢山出してる事業もあるので、そういうところでの商品券の活用がもっと地域に生きていくような形での活用ができるように、そこはちょっと市全体でまた考えていきたいと思ってます。

【会長】

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

【委員】

私も活動量計を持っていて、体操もしてて、皆さんにアピールして持ってもらったんですけど、年齢の高い人が多いので、もらったけど、どうして使う、電池はどうして変えるのかとかこの数字はどこで見るのかって言う事があって、なかなか使い勝手がわかってもらうのが、今2年目ですよ。だいぶ慣れて来られたんですけど、ポイントについてもアピールして、これを持っていきや、500ポイントつくでと言う話しをして、だいぶ、普及して歩いたら付くなという感覚もあって一生懸命自分の健康のために、今までこうしてはった人がこうして歩かないと付かへんとか言うて、励みになっておられるのは事実なんで、良い事業だと思います。ただ、使い勝手が、高齢の人はしんどいかなと思います。

【会長】

ポイントの交換の時に、一応説明あるよね。

【委員】

説明はしてもらっていますが、ちょっとね。

【保健医療課長】

それと、健幸マイスターっていうのも養成をしていて、精通している方にそういう交換するステーションとかで、いる場所とか時間とかによるんですけど、そこで教えてもらえるような仕組みもつくっていますので。

【委員】

あるのですか。

【会長】

それ知られてないってことやから。

【保健医療課長】

ちょっと始まったばかりですいません。まだちょっと活動の認知が。

【委員】

あるのですね、そしたらまた、そういう時に来てもらったらいいいのですね。

【保健医療課長】

はい。

【会長】

相談窓口みたいなのが、あればいい。

【保健医療課長】

はい、そうですね。ちょっとマイスターの活動をもっと活発に、来年度できたらいいなと思ってます。

【委員】

そうしたら皆さん、もうちょっと楽しみが増えると思うんで。言い活動やし、いいなと思います。

【委員】

すいません。社協の方からなんですけども、一つは電池の交換をしてくださいと言うて来られる人が何人かいました。あとは活動量計の読み取り機の使い方がわからないと言って窓口に来て、こんなふうにしてくださいねって言われる方もいらっしゃるんですが、誰かに聞いたらわかるから誰かに聞きみたいな感じで、どんどん地域の中でコミュニケーションを取っていったらいいのかなと思ったのと、ポイントの付与の期間、ポイント対象になる期間が4月から1月なんですよね。私もやってて、2月からつけるのはすごい忘れるっていうか、意識がすごく低くなるんですよ。なので、その期間がなんとかならないのかなとちょっと思ってるので、またご検討いただけたらと思います。

【事務局】

できたらポイント関係なしに着けといていただきたい。

【委員】

先ほど、南丹市在勤者にもこれから拡大するようなお話があったと思うんですけど、実はうちの事業所の方でも進めていまして、私も今年からさせて頂きまして、他にも事業所の中で3名ほど一緒にやっているのですが、南丹市に住んでいる者と市外の者にも声をかけたのですが、ただちょっと参加するのに躊躇するっていうのが、参加して貯めるというイベントが南丹市内に限られていて、それから商品券が南丹市内に限られている。それと、体重測定等を平日に行かなければいけない。これが仕事をしている上では、ちょっと参加しにくいというふうな意見がありました。これをどうなふうにするか、これから広がるのかなと言うところなんですけど、例えば南丹市外の方であれば、こういうことをすればポイントが貯まりますっていう南丹市外の人向けの特典があれば、何かいいのかな。例えば土日の何かに関することでもできるような会社が休みのときに南丹市に来ないときでも自分が何か参加したらポイントがつくようなことがあれば、それがメリットとして考えられると思ったのが一つ、あとはやっぱりポイントの付与が先ほどもあったんですけど、南丹市の中での経済活性もあるので、そこは南丹市内に限るのが私はベストなのかなと思うんですけど、逆に、南丹市

の商店さんで、例えば2000ポイントやったら、どこどこさんやったらこれを頼んだら自宅に届けますって、ふるさと納税感覚で。じゃあ、2000ポイント貯まったし、大体2000ポイントぐらいなら何とかそこそこ頑張れば貯まると思うので、いくつか魚屋さんとか何屋さんかわかんないんですけど、そういうところでも送ってもらえるカタログみたいなものがこうスマホ上で見れて、注文してポイントが還元できるっていうやり方をすれば、市外の人でもそこに出向かなくても、南丹市の買い物ができる。そういう仕組みを一緒に取り組めたら、ぜひ、事業所の中でもどんどん推進して行って、うちも製造部ですので、工場内を歩いていますし、電車で通勤してるものもありますので、日中何歩歩いたのかなとか自分の体重どうかなというふうな意識付けに活用できると、この一年通じて思いました。そういったことがあれば、もっと会社の中でもうちに限らず、八木町には、ジャトコさん、メグミルクさんとか、たくさん抱えておられるところがあるので、そうすればこう一気に参加人数がグッと上がって、ただそうなってくると、60代、70代ではなく、今現在働いている人たち20代、30代、40代っていうターゲットが増えるので、今度はそういう人向けに、じゃあどんなことができるのかという工夫もしていただくと良いのかなと思います。早いうちから健康に興味を持ってもらいたいと思っているので、実際最初の健康診断でも要精密検査になるのは、やっぱり20代前半、やはり最近いい食事を子どもの頃から食べているので血液検査だったり引っかかる、20代前半の方もいます。結構増えているなと思いますので、そういった意味でも、弊社で活用できたらいいなと思います。

【保健医療課長】

ありがとうございます。

【会長】

僕はやれたらいい提案やと思います。もし二九さんぐらいの企業であればね、出張して一時間だけそこ行って手続きするようにしたら。

【保健医療課長】

それはさしてもらおうと思ってます。

【会長】

宅配のやつはなかなかパンフレットを作るのが難しいので、この企業はつかえますよという一覧表があったよね。そこに星印とかつければ、そこは受け取られるところがね。そんなちょっと工夫したら、そんなにお金がかからへんのかなと思います。

【保健医療課長】

実は今年も企業訪問をした際に、そういったカタログギフトみたいなもので交換できないのかっていう他の企業さんからもちょっと声をいただいてまして、うち単独ではできないのですが、商工課と連携して、その辺りは市内の業者さんに協力してもらって。南丹市の商工課というセクションがあるので、商工会さんにも話はいくと思うんですけど。

【会長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

よろしいですか。はい。すいませんちょっとしょうもないこと一件だけ聞かせていただきたいんですけど。私もですね、これ健幸ポイント、今年から参加さしてもらっていろいろ話を聞かせてもらってたんですけど、さっき4,500ポイントマックスまでいっておられる方、すごいなと思って。僕も今日そのハガキが届いたんです。何ポイント貯まったかなと思ったら500円しかなかった。僕頑張らなあかんと思ったんですけど、ちょっとその中で一点だけとちょっと気になることがありまして、健幸ポイントの活動量計をぶら下げて動いてるんですけど、それをやっぱり体組織計に入れて測ろうとするのですが、あれ一回一回靴下をぬいで体組織計にのらないといけないですね。あれ、僕もこの前ちょっと、拝見させてもらったんですけど、やはり高齢の方が、靴下を脱ぐ作業がなかなか大変みたいなんです。ご夫妻でこられとったんですけど、お父さんの方が一生懸命脱いでおられた。確かに僕も五本指の靴下をはいているので、脱げない。それをもう少し簡単に測れる方法がないのか、例えば手で握るものとか、そんなんに変えることを検討してもらえないかなと。もう少し簡単だったら体組織計にも、簡単にまめに乗れるのではないかと思います。

【保健医療課長】

一度、タニタさんに言ってみます。

【副会長】

タニタの仕組みなので、タニタがデータを取るのにその仕組みを使っているんで、タニタが手で測るのを持ってないんですよ。タニタにデータが貯まっていくようになっているので、本当にタニタさんにデータを預けていくことがこの事業にとって良いのかどうなのかも。もっと色々なサービスが増えていくので、それがいいのかどうか。タニタは自分の商品を多分そのうちタニタの体重計を測ったらその体重計がリンクし合っ、そのように自分の事業展開をするようにやっているというのが、当然あるのと、データってのは全部こっちがもらえるんですか。

【保健医療課長】

基本的には、分析結果が来る形でしかない。全ての方のデータは来てますけど、ただ、それをうちで分析することは難しいので。

【副会長】

このデータも市にとってはすごく大きな貴重な財産で、このデータをどうやって管理していくのかってことも多分今後は大切。多分、その内マイナンバーカードと保険証が一緒になる。多分そうなっていったらできますから、その辺のところはどうするのかもちょっと考えなきゃいけない。今このビックデータビジネスが一番すごく盛んなとこなんで、どこにデータを預けるのかもすごく重要かなと思います。タニタさんが悪いということではないですよ。

【会長】

他に。

【委員】

遅れてきて申し訳ない。体組織計ですけどね、靴下を履いていても、いけそうなやつもありますね。ストッキングぐらいなやつはね、いけるのもあります。

【保健医療課長】

ストッキングは大丈夫です。アルコール吹きかけたりして伝導をよくしてもらったら。

【副会長】

靴下をはいても、データとしてとれるのですが、タニタのデータの信憑性がくずれるので、ある程度の条件の中でデータを取らないと解析できない条件なんだと思うんですね。だからもっと色々な企業で色々なものもあるので、そこをどうするのかをまた考えていかなきゃいけないと。

【会長】

ありがとうございます。たくさん意見をいただきました。齊藤先生が来られたのでちょっとお話を聞かなあかんのですけど。一点だけお願いしたいのは、健幸レシピですが、審査委員会のメッセージを印刷されてるんですけど、僕が前に言ってたんは、審査した人が感じたことを手書きにしてもらったほうがいいのか。年賀状を印刷してもらうよりか、一言あった方がね、嬉しいですよ。それと同じで、なんかね。せつかく審査してもらっているので、ここはもう一つだったなと言うところを褒める感じで書いてもらったら。一言でいいので、この文言に加えて、ここが惜しかったとかコメントがあると良いと思います。

イ 委員各位からの報告

【委員】（資料3 ①『10歳若返るインターバルウォーキング』 説明）

【会長】

ありがとうございます。何かご質問いかがでしょうか。何か差のする方法はないのでしょうか。

【委員】

あのね、差が出る方法はね。もうちょっと歩く速度を早くしてもらおう。

【会長】

年寄りには難しいので。

【委員】

筋力がつくのは、運動したら、プロテインとか牛乳を飲む。ヨーグルトとかを2倍ぐらい食べてもらえば。高齢者ですから、ほっておくと体力は低下するので、低下しないということですね。最終的にはね。

【会長】

いいんでしょうけど何か。応募する人は運動習慣がある人でしょ。

【委員】

そうですね。なってしまったんです。

【委員】

同じような生活をされている参加されない人のデータは取られていないですか。

【委員】

取ろうと思えばとれます。

【委員】

そうすると、違う数字がね。

【委員】

計画を立てる前は、インターバル速歩をしていたら体力が付くというのはデータで出てるから、それをベースにしたんです。今言われたことは改善します。

【会長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

年を重ねたら、年々体力が落ちていくけど、落ちてなかったっていうのは素晴らしい結果だと思います。インターバル速歩との違いが、何か今後の研究でまた見せていただければ、楽しみしています。

【会長】

老人クラブの中澤さんどうですか。これぐらいがいいですか。

【委員】

私ね、こういうふうに参加しているのですが耳がおかしいのです。全然、話されていることが聞き取れないです。特にマスクをしてから特にそうなんですけどね、テレビのアナウンサーの声はよく聞こえるのですが、今日の議論もね、健幸ポイントそのものも理解が不十分なんです、皆さんが何を議論をされているか意味が分かりません。こういう委員としていること自体が無理なんだと思います。

【会長】

他にいかがでしょうか。時間も押してますので、次の健幸都市宣言の草案について事務局からお願いします。

(2) 「健幸都市宣言」の草案について

【保健医療課長】(資料5 説明)

【会長】

私たちが提案したことを、事務局でうまくまとめてもらって、良い素敵な文章かなというふうに思うんですが、皆さん何かご意見をどうでしょうか。僕が1点気になったのはあなたと私、独り身はどうするんやと。

【保健医療課長】

友人とかいろんな人が。

【会長】

あなたと私じゃなくて、何か人みたい感じかな。あなたじゃなくて人、人も、ひらがなの人にするか、カタカナの人にするか。わからへんけど、なんかそんなんの方が2人やったらいいけど、いつか1人になるので。

【副会長】

あなたは、地域のということだと思っんですけど。

【会長】

うん、そういう意味合いなんやろうけど。読む人からすると、二人の世界みたいな。ちょっとだけ、僕はそこが引っ掛かった。どうでしょうか。

【委員】

草案をまとめていただくのは大変なことなので、意見をするのはどうかと思うのですが、会長がおっしゃったように、私は46年バツイチの独身で独り身なんですね。なので、ちょっと読んだ時に疎外感というか、ちょっと感じたかなって印象がありました。

【会長】

僕と同じということですね。

【委員】

そうですね。

【会長】

保健所の細野さんどうですか。

【委員】

すごくいい言葉でジーンときて目が熱くなったなと思いながら聞かせていただいて。課長も上手に読まはったなと。先ほどおっしゃったあなたというところ、まあどうですかね。ちょっといい案が出ないないので、おっしゃるように、何かもうちょっと抽象的な方がよいかもしれませんけど。もうちょっと考えます。

【委員】

あなたより、人のほうがいいと思います。

【会長】

どうでしょうか、伊藤先生。

【副会長】

地域の仲間とかの方がいいかも。抽象的なので、地域の仲間と一緒に、地域の人のサポート受けながらってことだと思っんで。そういう言葉なのかなという気はしましたが。

【会長】

せっかく詩的に書いてもらっているんで、説明的にはちょっと崩れるかもしれないけど、上手くい言葉がないかな。

【委員】

全部をあなたにしないで、どこかの部分を仲間に。

【副会長】

緑とかより、川とか自然の方がいいのかな。森の京都なので、森が多いということで緑を強調されているのかもしれませんが。

【委員】

基本的なこと聞くんですけど、健幸都市宣言を宣言する人は市長ですか。

【保健医療課長】

そうですね。、市長と健幸まちづくり協議会というふうに考えています。

【委員】

市長とか、この協議会の人たちが健康になってほしい人達があなただすね。

【保健医療課長】

そうですね。英語で言うとYOUなんで。単数か複数は特定していませんが。

【委員】

言う人が市長なんですよ。誰を対象にしているか。

【保健医療課長】

誰もが対象ですよ、南丹市に暮らす私たちの物語にしているのです。

【委員】

南丹市市民以外も含まれてくる。

【保健医療課長】

基本、南丹市の在住在勤の人だと思っんですけど。

【委員】

では、伊藤先生がおっしゃったみたいに、あなたみたいに言わないで、もうちょっと地域の人達とか市民とかの方がいいのかな、例えばね。

【会長】

詩的な感覚のある小泉さん、お願いします。

【委員】

色んな立場の方が読まれた時に、自分の置かれてる状況に、こうずっと入ってくる言葉ってなかなか難しいんだろうなと思っんですけど。逆に入れなくても省いても大丈夫なのかなって思う言葉も正直あるかなとは思っますね。これさっきの話で、市長さんていうのが、その辺で宣言するっていうところがあるんですけど。今日も大切なあなたとの素敵なひとときを大事にするってあるんですけど、1人でも自分の好きなことを大事にして過ごすのって1人でやってもすごく素敵なひとときだったりするので。一人一人が自分の大切な人を大事にするっていう意味で言えば、これは別に今日も大切なあなただったら、誰か第三者がいなくても素敵なひとときを過ごせないわけではないかと読んでるうちに思ったので。ここ、例えば今日も大切な素敵なひとときを大事にするでも、10人でも1人でも100人でも2人でも、大切なひとときは大切なひとときかなと思っます。あなたと私ってというのは宣言するのが特定されるからこうなるのかなと思っます。別にそれぞれが対比してなくても誰もがとか私たちがとか、みんながっていうイメージに変えても良いのかな。

【会長】

みんながいいかもしれない。

【委員】

心から大事なあなたを思うっていう、あなたはみんななので。最後のところで、私たちは健幸のまちの今を生きるっていうのは、すごくいい言葉でジーンとくるな。かけがえのないあなたっていうのが誰から見たあなたなのかという所と、今日も大切なあなたとの素敵なひと時には、あなたでなくても1人でも素敵なひと時を大事にしたらと思ったぐらいですかね。

【会長】

一行目なかったら。

【委員】

かけがえのないあなたですか。

【委員】

あなたがを三つふんでるんやろ。これは意味があるんやろ。

【保健医療課長】

事務局がというよりも。

【委員】

三つを使い分けるんやったら、今おっしゃったように、なんかこれ、あなたを三つおいているのは。

【保健医療課長】

読んだ時にそれぞれ自分の物語になるっていうのが、人とか、抽象的にするよりも具体的な、例えば親であったり、そういうところがいいのかなというのが、そもそもが、この三つの着眼点で、健康について書いていただいた中で、きずとか、大切な人との時間の共有とか、そういうものがすべて書いてありましたので、そこからきているので、あまり抽象的よりも誰にとっての誰、あなたなのかをちょっと、これはそれぞれの方にとってのあなただと思うんですけど。決して人間は1人で生まれてきて1人で過ごすわけではないので、最終的に死ぬ時は1人ですけど、でもそこは何て言うんすかね。ハーバード大学の研究で、健康を80年間ぐらい研究している研究があるんですけど。そこで健康にとってとか幸福にとって一番何が大事かっていうと、人との繋がりは大事っていうことが出ていて、お金よりも名誉よりも明らかに人間関係が良好な人がいるっていうところが最大の幸福であるっていうのは出てきて。そこから通じるのかなと思って、ちょっと今回、草案の中であなたっていう表現を使わせていただきました。

【会長】

そんな中で、ちょっと違和感を持ったのは僕と池田さん。おそらく、もっと大きい升になったらもっと言う人がいるかもしれない。

【委員】

それはね、個人が読んだときに、それぞれの想像しか出来ないじゃないですか。

【会長】

そうですね。それをあなたとするのがいいのか、他の言葉に変えるのがいいのかっていうのかな。あなたって言ったら、何か詩的な感じはするけど、ちょっとロマンチックで。

【委員】

僕もちょっとこれ読ましてもらったときに、誰がこの宣言をしてはるのかなっていうのが引かかって。市長と委員会が市民の皆様呼びかけるといことで考えると、この二人称で僕はいいんじゃないかなと思うんですけど。それこそ、二節目のあなたと私が笑顔であるようにと言うところを、例えばですけど、すべての人が笑顔であるように、というふうに大きく変えてしまったら、あなたを全部、想像していただけるのではないのかなと思います。

【会長】

先ほど、みんなに変えたらとおっしゃいましたね。

【委員】

ちょっとそこの一節が気になるのであれば、変えた方がいいのかな。

【副会長】

多分これ私っていう言葉が入ってしまったことで、あなたはあなたなんだけど、市長があなたって言うてるのは皆さんのことをあなたって言うてる可能性もあるんで。僕が思うあなたでなくて、市の人とか、みんなが思うあなたになるので。あなたをどっちにとらえるかも結構難しいかなと思って。私が思うあなたなのか、いわゆる市長とかこういう皆さんが思うあなたなので。あなたと私たち市民がなっているんで、そこをあなたにしてもいいのかななんて。私達がつてなると、あなたは私のことを言うてるんで。今日も大切なあなたと私になっているので、他の人じゃなくて、あなたと私のことを言うてるのかなというふうに想像できる。

【委員】

今日も大切なあなたと心から大事なあなたっていうのは、例えば、それとあなたと私というところを、みんなに全部置き換えてしまうと何か。例えば、かけがえのない人だけ人にして、あとをみんなに置き換えてしまったら。

【委員】

お手紙形式みたいに、最初に誰々から南丹市に住む皆さんへと付いたら、あなたは皆さんで、私は私達になる。そうするとあなたは読んでるあなたで、一人一人読んで下さっているあなたで言うてるのが私たちです。私になるのですかね。そうか、かけがえのないあなたと、かけがえのない暮らしとか、かけがえのない日々とか何か違う言葉でまとめるとか。そのままの文章でいくのであったら、ちょっと、あなたが誰で私が誰だと、ちょっと読み手にわからせてあげた方がいいのかな。

【会長】

どうでしょうか。

【委員】

上のところに、「住んでいるだけで健康で幸せになれるまち、南丹市に暮らすわたしたちの物語」やから、上の部分を気にしたら私っていうのは、市に住んでる人たちのことやろ。そう私は取れるんやけど。上の文を読んでから下を読むと。

【保健医療課長】

まさにそうです。

【委員】

そうですね。

【保健医療課長】

宣言するのは市なんですけど、そこは住民一人一人に向けて。

【委員】

「南丹市に暮らすわたしたちの物語」で書いてるから。その文章の中に入ってる「わたし」は、市民一人一人っていうこと違いますの。

【会長】

そりゃそうやな。

【副会長】

南丹市に住むあなたの物語とすれば、あなたは皆さんになると思うんで。あなたに変えることも出来るのかなと。

【委員】

そうですね。

【副会長】

あなたに変えることも出来るのかなという。バランスを考えたら、あなたを残すんだったらそうした方が。

【会長】

ただほら、枠を決めてしまうと、その意味にしかとれなくなって。もうちょっと詩的なんって言ったら、もうちょっとポワーンと広がって、誰にでも良いふうに解釈できるみたいな。そんなんの方がいいかなと思う。

【委員】

だから私はこの文章でおかしくないと思う。

【会長】

このままでか。

【委員】

1つだけ、大切なあなたの素敵なひと時を大切にすると言われたのは、あなたとの素敵なはなくても良いような気もする。今日も大切なひとときを大事にするっていう感じ。わからへんけど、文章的には別に。

【会長】

もうちょっとぼやかした形で私というのを、確かにいい言葉ではあるんやけど、1人で孤独な独居の老人の人なんかが見ても、ああ、なるほどなと思われるような宣言文にしたいけどな。

【委員】

せやけど、私が思うには、大切なあなたは旦那さんとか、そんなに限らんと、子どもであつたり孫であつたり色々あるわけでしょ。その時の立場によって、大切な人が違うわけやから。別に、さっきはそう思ったけど、私達っていうのはみんなに言うことになったら、別に格段にあなたっていうのにこだわる必要はないかなと思う。一人一人の大切な人が違いますやん。

【副会長】

あなたは4回出てくるけど、私は2回なんですよ。私のことはあんまり考えずに、あなたのことを考えてるので、私はあなたを皆さんに伝えた方がいいのかなというふうに。本当は自分が健康でなければ人のことも気にならないので。あなたを第三者と考えた時には、あなたは4回書いてあるんですが、私はその真ん中のあなたの方に中心が、相手の方に重心が向かってるるように思う。自分ことを大切にしましょうという社会なので、それがいいと思わないですが、言葉は難しいな。

【委員】

あなたといえば1人でしょう。英語のYOUは単数と複数なんですね。その違いがあると思います。日本であなたやったら、私があなたて言ったら誰か1人のことを指しますよね、感覚的に。あなた方っていったら、皆さんやと。

【委員】

1つぐらいは、あなたを使ってもよいかもしれない。

【会長】

その辺をもう少し考えてもらって。

【保健医療課長】

もう少し方向性が出ないと、なかなか難しいですが。木村先生がご相談させていただきまして、はい。

【会長】

時間がないので、僕と事務局で一任お願いしてもいいでしょうか。活発な意見が出て、楽しかったです。あと、今後のスケジュール日程ですよね。

(3) その他

【保健医療課長】

はい。すいません事務局からちょっと次年度の予定など、お話をさせていただきたいと思います。令和5年度につきましては、3月議会で提案もさしてもらってるんですけど、予算を提案させていただいておりまして視察研修なども検討を、先進地の健康まちづくりを進

めているところとの交流とかも出来ればと考えておまして、そういったことも考えていくためにもまず6月頃に第1回目をさしていただきたいと考えております。で委員の皆様、団体から出てらっしゃる方とか、組織によっては異動とかもあると思いますので、もし4月で代わられた場合には、事務局の方までご連絡いただければと思いますので、よろしく申し上げます。事務局からは以上です、

【会長】

はい、ありがとうございます。それでは、僕の方はこれで終わらさせていただきます。

【保健医療課長】

はい、木村会長ありがとうございます。皆様には活発なご意見いただき、ありがとうございます。まだ健幸まちづくり宣言の方は宿題が残っておりますが、木村会長とご相談させていただいて、皆さんにとって納得いく宣言にできたらなと思っていますので、よろしく申し上げます。それでは閉会にあたりまして、伊藤副会長からご挨拶いただきたいと思ます。申し上げます。

4. 閉会

副会長挨拶

【副会長】

皆さん、長時間お疲れ様でした。皆さん、活発な議論というか、やっぱり皆さん、地域の繋がりがないと健康になれませんし、健幸ポイントがコミュニケーションツールになっていくわけですから。そういうようなまちづくりっていうのを、仕組みとして作っていけると、もっともっと、みんなが健康に対して考えられるような、そんなまちになっていくんじゃないかなと思うと、やはり仕組みづくりから変えていくことが大事だと思うんで、この協議会の意味がすごく大きいんじゃないかなと思っています。また来年度も大変だと思いますが、ぜひよろしく申し上げます。今日はどうもご苦労さまでした。

【保健医療課長】

ありがとうございます。以上をもちまして閉会します。本日はありがとうございました。